

がんの予防につながる ワクチンがあります

～HPVワクチンで子宮頸がん予防を～

HPV（ヒトパピローマウイルス）とは？

どうやって感染するの？

性的接触^{せっしょく}で感染します。

ワクチンで何を
予防できるの？
子宮頸がんの原因の
80～90%を防ぐ
ことができます。

※9価ワクチンの場合

いつ接種したら
いいの？

小学校**6**年～高校**1**年相当の
女子は定期接種の対象です。

HPVに感染すると
どうなるの？

感染しても無症状ですが、
一部の人で**がん**になって
しまうことがあります。

ワクチンには
リスクがあるの？

接種部位の痛み等や、
まれに重い症状^{じょうじょう}が起こる
ほか、広い範囲^{はんい}の痛み等の
多様な症状が報告されて
います。



©2014 大阪府もずやん

詳細は裏面をご覧ください。

どうやって感染するの？

主に**性的接觸**により、女性だけでなく**男性も**感染します。

HPVは、一度でも性的接觸の経験があれば誰でも感染する可能性があります。

HPVに感染するとどうなるの？

感染しても**無症状**であり、ほとんどの場合、ウイルスは自然に消えますが、**一部残ったウイルスが原因でがんになってしまうことがあります。**

HPVは、子宮頸がんのほか、性別を問わず中咽頭がんや肛門がん等の原因にもなっています。

いつ接種したらいいの？

【定期接種対象者】

小学校6年～高校1年相当の女子



何回接種するの？

年齢によって接種間隔・回数が異なります。
1回目の接種を15歳になるまでにする場合は合計2回、15歳になってから接種をする場合は合計3回の接種が必要です（※）。

ワクチンで何を予防できるの？

子宮頸がんの95%以上はHPVが原因であることがわかっています。HPVワクチンを接種することで、**子宮頸がんの原因の80～90%（※）を防ぐことができます。**

子宮頸がんは20歳代から増え始め、日本では毎年、新たに約1万人が子宮頸がんにかかり、うち約3,000人が亡くなっています。

男性も接種することで、自身のがん予防につながり、パートナーへの感染を予防することができます。（男性は任意接種のため、費用がかかります）

ワクチンにはリスクがあるの？

多くの方で接種部位の痛みや腫れ、赤み等が見られ、まれに重い症状が起こることがあります。また、広い範囲の痛み、手足の動かしにくさ、不随意運動といった多様な症状が報告されています。ワクチンが原因となったものかどうかわからないものも含めて、接種後に重篤な症状として報告があったのは、ワクチン（※）を受けた1万人あたり約2人です。

接種後に気になる症状が出たときは、接種した医師やかかりつけ医に相談してください。

（※）9価ワクチンの場合



HPVに関する情報はこちら



【大阪市民の方へ】

子宮頸がん予防（HPV）ワクチンの接種についての詳細は

HPVワクチンの定期接種に関する問い合わせ

大阪市 健康局健康推進部健康づくり課 06-6208-8250（平日9時から17時）

HPVワクチンの一般的なことに関する問い合わせ

大阪府 医療・感染症対策課課 感染症対策G 06-4397-3549

HPVワクチン接種後の学校生活に関する問い合わせ

大阪府 保健体育課 保健・給食G 06-6944-9365

大阪市 HPV

検索

